

三世代の同居・近居の効果

子どもをもちやすい

○一般的に、同居する人数が多くなるほど、一人当たりの生活費は安くなる傾向にあります。

- 別々の家に暮らすより、電気等の使用量は少なくなります。
- 基本料金もまとめられます。

○住宅の建設費用や維持費用も2軒分より安くなります。

○同じ費用をかけるなら、二世帯住宅にするほうが、豊かな空間をつくることができます。

○親世帯と同居・近居の世帯は、別居の世帯に比べて子どもの数が多い傾向にあります。

子どもの数が2人以上の割合
同居：65.6%
近居：66.8%
別居：57.4%

○同居率が高いと女性の就業率も高い傾向にあります。これは女性が働き続けやすいということであり、経済的なゆとりが子どものもちやすさにつながります。

経済的なメリット

• 高齢者が今後、優先的にお金を使いたいものの第3位は「子供や孫のための支出」です。

⇒P62 参照

• 同居や近居住宅の取得等の場合は、補助金による支援や税金の優遇措置等もあります。

⇒P40～58 参照

• 理想の子どもの数をもたない理由は、経済的な理由が第1位です。

⇒P62 参照

• 三世代同居と女性就業率は正の相関関係にあり、女性就業率と出生率も正の相関関係にあります。

⇒P60 参照

実は、

• 子育て世代にあたる30～40歳代の約60%が、三世代同居・近居を理想の家族の住まい方と考えています。

• 三世代世帯(祖父母と親子)の約65%が、世代同居・近居を理想の家族の住まい方と考えており、二世代世帯(親と子)や他の世帯構成に比べて多くなっています。

⇒P64 参照

とはいえ、不安も・・・



豊かな心の子どもが育つ

- 子どもが小さいうちは、何かの時に助けてもらえる人が近くに居ると、何かと安心です。
- 仕事と育児の両立や、自由時間の確保がしやすく、育児ストレスの軽減につながります。
- 二世帯で家事を分担をすることで、お互いの負担を減らすことができます。
- 親世帯にとっても、「孫育」が体力向上や社会参加のきっかけになります。

- 子どもにとって、回りに色々な大人がいると、多様な価値観に触れながら育つことができます。
- 生活の知恵を教えてもらうことも期待できます。
- 身近に祖父母がいることで、自然と高齢者へのいたわりの気持ちが出てくるのが期待されます。
- 祖父母がクッション役になってくれることもあります。

子どもを育てやすい

- 20～79歳の約8割が、子どもが小学校に入学するまでの間、祖父母が育児や家事の手伝いをすることが望ましいと思っています。
- 高齢者の24%が、孫の面倒を見ている時に生きがいを感じています。

⇒P61 参照

- 祖父母に期待する手助けの上位は、子どもに関することです。
 - 第1位：子どもの話しや遊び相手をする
 - 第2位：子どもに自分の経験や知恵を伝える
 - 第3位：日常生活上のしつけをする

⇒P63 参照

- ☆ 三世代の住まい方には、いろいろな形があります。
- ☆ お互いの生活スタイルや性格にあわせて、住まい方を見つけてください。
- ☆ 生活の中の気遣いは、住宅の作り方を工夫することで少なくすることができます。
- ☆ 住まい方のルールを話しあうことも大事です。

